

# よろずは

平成二八年

七月号

## 歌碑めぐり 17

採女<sup>うねめ</sup>の袖吹<sup>そでふ</sup>きかへす明日香<sup>あすか</sup>風<sup>かぜ</sup>都<sup>みやこ</sup>を遠<sup>とほ</sup>みいたづらに吹<sup>ふ</sup>く

卷一の五一番歌

采女の袖を吹きひるがえす明日香の風、今は都も遠く、空しく吹くことよ。

この歌には「明日香宮より藤原宮に遷居<sup>うつ</sup>りし後に、志貴皇子の作りませる御歌」という題詞がついています。六九四年の藤原京遷都後、飛鳥京を懐かしんで詠まれたのでしよう。

甘樫<sup>いぬか</sup>丘<sup>かいたかし</sup>の展望<sup>さきごう</sup>台<sup>たい</sup>手前<sup>てまへ</sup>、木漏れ日のなかにこの歌の碑があります。犬養孝<sup>いぬかい</sup>氏<sup>たかし</sup>の揮毫<sup>きごう</sup>によるものです。犬養氏は全国各地に百基を超える万葉歌碑を揮毫されていますが、この歌碑が第一号にあたります。昭和42年（一九六七）、犬養氏の還暦と百回目の大阪大学万葉旅行との節目を記念して、全国の教え子によって建碑されました。そして都市開発の波から明日香の景観を守ろうとする思いも込められています。除幕式では、黛敏郎<sup>まゆづみ</sup>氏<sup>としろう</sup>の作曲「萬葉歌碑のうた」が披露され、現在も歌い継がれています。碑に込められた願いや名曲と相まって、明日香村で広く愛されている歌碑です。「万葉古代学係」

タイトルの「よろずは」は、「万葉」を訓読みしたものです。



甘樫丘（奈良県明日香村）